

港区立港陽小学校
令和6年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる資質・能力。 日常生活における人との関わりの中で、自分の思いや考えを伝え合う力。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手に伝わりやすいように、文章全体の構成を考えて書く力が低い。 新出漢字に対する意欲や、定着に関するばらつきが見られる。 自分の思いを言語化することに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストだけでなく、継続して語彙・文法・短い文章を書く練習をする時間を朝学習の時間等で確保する。 読む相手や書く目的を具体的に設定したり、字数や要約などの条件を課したりして、自分の考えを書く機会を定期的に設ける。 書いた文章を友達と共有する時間を増やし、感想を伝え合う時間を設ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地域や地理的環境、現代社会の仕組みや働きなどの社会生活についての理解。 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力。 考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> 区の位置や地形、土地利用など実際に目で確認できないことの知識、理解の定着がしにくい。 国土の様子や政治に関する用語、歴史上の人物などの必要な知識が定着していない。 グラフや資料の読み取りはできるが、それをもとに多面的に考えたり、背景と関連づけたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験や見学などの経験を重視し、学習の効果が上がるように実施の時期を適切に計画する。 授業や単元の終わりには大切なポイントや用語を確認してまとめる。小テストやワークシートで知識の定着を図る。 社会に見られる課題を把握し、その解決に向けた社会へ関わり方について、グループ活動を活用することで多角的な視点をもって考えられるようにする。また、自身の選択・判断について表現、議論する場を設けるようにする。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な四則計算を正確に行い、問題解決に活用する力。 文章問題を正確に読み取る力。 既習事項を活用して、図や式、言葉で考えを表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の基礎的・基本的な知識の習得に差がある。 文章問題の条件や題意の読み取りに苦手意識をもったり、正確に読み取る力が不十分であったりする児童が多い。 既習事項で身に付いた知識や技能を活用し、図や式、言葉で表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業の始めなどに基本的な計算の反復練習を行い、定着を図る。 文章問題の分かっていることや聞かれていることなどの条件や題意を明らかにし、正確に問題を読み取り、立式できるようにする。 自分の考えを図や式、言葉で表し、説明する活動を繰り返し行う。ICT機器を活用し、友達の考えを取り入れながら自分の考えを深めることができるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象についての理解。 ・観察・実験などに関する技能。 ・主体的に問題解決しようとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験における問題解決の流れの定着が不十分である。 ・予想や考察を自分の言葉で表現する力にばらつきがある。 ・考察をする場面で、観察や実験結果から学習問題に対応した結論を論理的に導き出す力が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習過程に繰り返し取り組み、理科的な見方、考え方ができるようにする。 ・実験、観察や交流の場面でICT機器を効果的に活用する。 ・実験、観察結果を共有しながら、考察・結論を導き出す活動を多く取り入れる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける力。 ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する力。 ・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を自分自身や、自分自身の生活を結び付けて考える機会が少なかった。 ・良い気付きがあるにも関わらず、うまく表現できていない。 ・友達と一緒に活動することができたが、人任せにしてしまう児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動や体験をしたり、友達や地域の人々との関わりに重点をおいた活動を取り入れたりする。 ・生活科での気付きを児童の発言、記録カード、作品、写真などを用いて表現する。また、自分の行動や自分の生活と結び付けて振り返りを行い、気付きや思いを表現し合う活動や場を設定する。 ・一人ではできないことは、ペア学習やグループ学習を意識的に取り入れ、教科横断的な学習の充実を図る工夫をする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能。 ・曲や演奏の楽しさを見い出しながら音楽を味わって聴く力。 ・音楽を愛好する心情と感性、音楽に親しむ態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や音楽記号などへの親しみがあまりない。 ・楽曲に対して、自分なりの思いや意図をもち、主体的に表現することが難しい。 ・周りの音をよく聴いて演奏することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏表現の工夫を自分で考えたり共有したりする活動を取り入れる。 ・音楽記号の学習や階名唱は常時活動として継続的に行い、知識の定着を図る。 ・一方的な知識や技能の伝達ではなく、児童同士、教え合う時間をとる。

図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品に対して自分の見方や感じ方を深めたりすることができる能力。	・きれいなもの、美しく整っているものを好む。そんな作品に仕上げることを目指すなど表したいことはある。しかし、それを表現することが苦手であり、表せないとすぐに諦めて最後まで意欲的な作品作りにつながりにくい。	・鑑賞する時間を通して、作品の表現の良さや面白さを感じとり、作る喜びを高める。 ・形や色を基に想像を膨らませ、視点を絞り造形的な活動や表したいことなど思いつくよう視点を絞ったり、題材の提示を工夫したりしながら指導する。

家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・日常生活に必要な基礎的な知識理解・技能。	・日常生活の中でよりよい生活を目指して自分にできる工夫を考えることが難しい	・課題が多い児童には個別対応を行い、知識・技能の習得に向け支援を行う。 ・自ら実践できる見通しをもたせるよう、日常生活に応用できる課題の設定を行う。

体育	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・健康の大切さや自己の健康の保持、増進に進んで取り組む態度。 ・持久力、走・跳の運動等、基本的な動きや技能。	・立ち幅跳びの数値は、全国平均よりも上回っている学年が多い一方で、50m走の数値がほとんど下回っている。 ・学年によって、種目の数値にばらつきがある。	・動画撮影をするなどし、課題を明確にしたり自己の成長に気付かせたりする。 ・対話的な学習活動を増やし、仲間と協力して課題を解決することができるよう授業を工夫する。 ・個に応じた場の設定をし、課題にあった練習に取り組めるようにすることで「できた。」という実感をもたせる。 ・体育朝会や授業の始まりに様々な動きをする機会を設け、多様な運動経験を積ませる。

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・英語に親しみ主体的に語学力向上に取り組む態度。 ・学習した表現を生かす力。	・聞き取る力の不足 ・会話の際に、日本語に頼ってしまう。	・友人や教師との会話を通して発話量を増やし、英語に対する親近感をもたせる。 ・既習の表現を生かした言語活動を設定し、身に付けた表現を使う機会を確保する。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として捉えながら、自己のより良い生き方について考える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えやワークシートへの記入が、授業のねらいとずれていることがある。 ・児童の読解力不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入5分、展開25分、終末15分を標準とし、振り返りの時間を確保できる授業時間を管理する。 ・自分ならどう感じ、どう考え、どう行動するかを自然に考えられるような発問を精選すること、また、どの児童にとっても理解できる発問をする。 ・児童の考えや感じたことを共有し、自分とは違う考えや似ている考えに触れることで内容項目に対する見方や考え方を広げる。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の課題を見出し、解決に向けた話し合い活動をする力。 ・自分の役割に責任をもって主体的に仕事や活動に取り組む力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割意識や責任感をもつて活動することができない児童がいる。 ・係によって、主体的に活動を進めていくことができる児童とできない児童がいる。 ・話し合い活動をすることに消極的な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、話し合いに参加できるよう身近な話題を議題にし、話し合い活動の経験を増やしていく。 ・話し合いの方法を型で示し、見通しをもって適切に話し合いができるよう指導する。 ・自信をもって取り組めるよう、できたことを称賛する。 ・スモールステップで明確な到達目標を示す。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を効果的かつ有効的に活用し、学習に取り組む力。 ・児童が見通しをもって学習に取り組む力。 ・地域の特性を生かし、身近な環境に興味、関心をもち課題を設定する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用やアプリケーションの使い方の習熟度の差が大きい。 ・見通しをもって自分の力で学習に取り組む態度が育っていない。 ・調べたことから新たな課題を考える力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の実態に沿った目標を立て、ICT機器を有効的に使えるよう学習に取り組む。 ・児童が見通しをもてるような課題設定を行い、「まとめ」→「考察」→「新たな課題の発見・設定」という手順で学習を進めていけるようにする。 ・児童の興味を引くような課題を設定する。